

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩実用新案出願公告

⑪実用新案公報 (Y2) 昭57-1828

⑫Int.Cl.<sup>3</sup>  
A 47 G 33/02

識別記号  
6537-3 B

序内整理番号  
6537-3 B

⑬⑭公告 昭和57年(1982)1月12日

(全3頁)

1

2

⑪椅子

⑫実願 昭54-370  
⑬出願 昭54(1979)1月9日  
公開 昭55-100587  
⑭昭55(1980)7月12日

⑮考案者 銀治 基一  
高岡市長慶寺575番地 ワシアル  
ミ株式会社内  
⑯出願人 ワシアルミ株式会社  
高岡市長慶寺575番地  
⑰代理人 弁理士 佐藤 正年 外1名  
⑱引用文献  
実開 昭51-96600 (JP, U)  
実開 昭47-9798 (JP, U)

⑪実用新案登録請求の範囲

(a) ① 基台となる底座；  
② 底座上に載設され仏像等を載置する台座；  
③ 仏像等の背面を囲み底座上に立設され、扉体と共に筒体を形成する囲壁体；  
④ 仏像等の正面を囲み囲壁体と共に筒体を形成し、それぞれ囲壁体側縁との隣接部を軸として回動可能な2個の扉体；  
⑤ 前記筒体の上部を覆う頂体；及び  
⑥ 頂体の下部に接して設けられる装飾体；  
よりなり；  
(b) 囲壁体の上下縁には内方に向けて直角に張出している帯状の張出部が設けられ；  
(c) 底座及び頂体には、これらに接する囲壁体の外側縁を囲む凸条が設けられ；  
(d) 台座及び装飾体は筒体に内接する周縁形状を有し；  
(e) 門体の囲壁体と隣接する側縁端には軸部材が設けられ、該軸部材が底座及び頂体に設けられた軸受部に嵌合され；  
(f) 囲壁体が底座及び頂体の凸条内に嵌合せし

められ、その張出部が互にビス結合される底座と台座及び頂体と装飾体の周縁部の間に挟まれて、底座、台座、囲壁体、扉体、装飾体及び頂体が一体に固定され；

5 てなる椅子。

考案の詳細な説明

この考案は仏像等を納める椅子に係るものである。

仏像等を納める椅子は古くより各種のものが知  
10 られている。また椅子は一般に各部材毎に細かい彫刻が施され、これらの部材を組合せて形成されている。これらの細かい彫刻が施された部材を接着、ビス止等により接合するにしても、接合箇所が多く、且つ美観を保つ必要がある為、部材の組合せ  
15 は簡単に実施することができないのが現状であつた。

この考案の目的は、椅子が細工容易な部材に分割され、しかもそれらの部材を組合せて椅子とすることが簡単な椅子を提供するにある。

20 この考案による椅子は次の6種の部材にて構成される。  
① 基台となる底座。  
② 底座上に載設され仏像等を載置する台座。  
③ 仏像等の背面を囲み底座上に立設され、扉体  
25 と共に筒体を形成する囲壁体。  
④ 仏像等の正面を囲み囲壁体と共に筒体を形成し、それぞれ囲壁体側縁との隣接部を軸として回動可能な2個の扉体。  
⑤ 前記筒体の上部を覆う頂体。  
⑥ 頂体の下部に接して設けられる装飾体。  
この考案による椅子の各部材は次の如く加工されてある。  
① 囲壁体の上下縁には内方に向けて直角に張出  
20 ている帯状の張出部が設けられてある。  
② 底座及び頂体には、これらに接する囲壁体の外側縁を囲む凸条が設けられてある。  
③ 台座及び装飾体は筒体に内接する周縁形状を

3

有する。

④ 屏体の囲壁体と隣接する側縁両端に軸部材が、底座及び頂体に軸受部が設けられてある。

⑤ 底座と台座及び頂体と装飾体は互にビス結合することができる手段が設けられてある。

しかしてこの考案による椅子は、屏体の軸部材を底座及び頂体に設けられた軸受部に嵌合し、囲壁体を底座及び頂体の凸条内に嵌合し、その張出部を底座と台座及び頂体と装飾体の周縁部の間に挟んで、底座と台座及び頂体と装飾体をビス結合して、底座、台座、囲壁体、屏体、装飾体及び頂体を一体に固定して形成される。

以下この考案の椅子を実施例の図面に基いて詳述する。第1図a、b及び第2図はこの考案による椅子の一実施例を示すものである。第1図は正面図でaは屏体を閉鎖した状態を、bは屏体を開放した状態を示す。第2図は第1図aにおけるA-A矢視断面図である。

この考案による椅子は基台となる底座1、底座1上に載設され仏像等を安置する台座2、仏像等の背面を囲み底座上に立設される囲壁体3、仏像等の正面を囲む2個の屏体4a、4b、囲壁体3及び屏体4a、4bの上部を覆う頂体6、並びに頂体6の下部に接して設けられる装飾体5により構成されている。囲壁体3及び屏体4a、4bにより筒体が形成される。

囲壁体3の上下縁には内方に向けて直角に張出している幅の狭い帯状の張出部3aが設けられている。

底座1及び頂体6にはこれらに接する囲壁体3の外側縁を囲む凸条1a及び6aが設けられている。また台座2及び装飾体5は筒体に内接する周縁形状とされてある。

屏体4a、4bの囲壁体3と隣接する側縁両端には軸部材4cが設けられてある。また底座1及び頂体6には軸受部としての孔1b及び6bが穿設されている。

底座1及び装飾体5にはそれぞれビス孔1c、5cが、これらのビス孔1c、5cに対応する台座2及び頂体6の位置にねじ孔2c、6cが穿設され、これらにビス7を嵌入し両者を締付け得るようにされてある。

屏体4a、4bの前端部には、一方に閉止杆8が回動自在に取付けられ、他方に該閉止杆を解脱せ

4

しめる係止杆9が取付けられている。

この考案の椅子の各部材は以上の如く構成されている。次にこれら部材の組立要領について述べる。組立の順序は底座1又は頂体6のいずれを基とし、5としてもよいが、ビス止めの便の為には頂体6を基として、即ち椅子を逆に組立てるのが都合がよいので、これについて述べる。

先ず、頂体6の凸条6a内に囲壁体3を嵌合せしめ、装飾体5を囲壁体3の内側に挿入して頂体10 6と装飾体5の周縁部で上側の張出部3aを挟み、次いでビス孔5c、ねじ孔6cにビス7を挿入して締め、頂体6、囲壁体3、装飾体5を一体に固定する。

次に、頂体の孔6b、6bに屏体4a、4bの軸部材4c、4cを嵌入し、囲壁体3、屏体4a、4bにて筒体とし、筒体の他端に、囲壁体が底座1の凸条1aに嵌合し、屏体4a、4bの軸部材4c、4cが底座1の孔1b、1bに嵌入するように、底座1を当接し、底座1を当接保持せらるまゝ、屏体4a、4bを開き、台座2を囲壁体3の内側に挿入して底座1と台座2の周縁部で下側の張出部3aを挟み、ビス孔1c、ねじ孔2cにビス7を挿入して締め、囲壁体3、底座1、台座2を一体固定する。これにより屏体4a、4bも囲壁体3周縁との隣接部25を軸として回動可能に固定され、底座1、台座2、囲壁体3、屏体4a、4b、装飾体5及び頂体6の全部材が一体に固定されて組立が終る。

この考案による椅子は以上の如く構成され、細工容易な部材に分割されているので、彫刻等の細工が容易である。またこの椅子を金属、合成樹脂で製作するときは各部材の型も容易に準備することができる。また張出部3aは幅狭の帯状にしてあるので、成形容易で材料費も低減できるし、単に頂体と装飾体、及び底座と台座に挟むだけでよいので組立容易である。更に椅子の組立ては、ビス2本で簡単に実施することができ、熟練工の必要がなく、全くの素人でも可能である。また使用したビスの頭は人目につかぬところにあるので美観を損うことがない。従つてこの考案の椅子は実用的価値が大である。

#### 図面の簡単な説明

図面はこの考案の椅子の一実施例を示すものである。第1図は正面図で、aは屏体を閉鎖した状態を、bは屏体を開放した状態を示す。第2図は第1

5

6

図aにおけるA—A矢視断面図である。

図面において1は底座、2は台座、3は囲壁体、4a,4bは構体、5は装飾体、6は頂体、1a,6aは

凸条、3aは張出部、4cは軸部材、1b,6bは軸受部、7はビスである。

